

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立邑久小学校

(児童数678名 教職員数58名)

つながり合う「あいさつ運動」
～ 自ら考え、自ら動く子ども主体の取組 ～

アピールポイント

「校内のみんなともっとつながり合いたい」という思いをもち、児童会と6年生が中心となって、自分たちで何ができるかを考え、計画し、主体的にあいさつ運動をしている。また、活動ごとに一人一人が振り返りをし、さらによいものになるよう計画をしている。

実際の様子



取組の概要

■児童生徒の実態

児童数678名の大規模校のため、同じ学校にいながら、他学年の児童や教員と互いに会話をする機会が少なく、つながり合いにくい現状がある。もっとたくさんの友達とつながり合いたいという思いをもっている一方で、あいさつを自ら進んでしている児童が少ない。

■活動内容

児童会では、週3回、登校してきた児童から校門に立って、後から登校してくる児童にあいさつをしている。また、県下一斉あいさつ運動実施日には、6年生全員で校門に立ったり、学級の取組として、その日一番心に響くあいさつを返してくれた相手に『あいさつつながりカード』を渡したりしながらあいさつを行っている。カードには、一人一人が「あいさつでこれからもつながり合おう」「すてきなあいさつありがとう」等のメッセージを書いている。

■取組の参加メンバー

児童会、6年生児童、校長、教頭、児童会指導担当、生徒指導担当、6年生担任

■成果・効果

あいさつ運動後の感想では、「朝からあいさつをすると気持ちよかった。」「もっとあいさつを広げたい。」等の感想が多く聞かれた。朝からあいさつ交わす気持ちよさを感じた児童が多かった。自分たちで計画し実践することで、達成感を感じ、あいさつ運動をさらによい学校づくりにつなげたいという意欲が感じられる。